

函館中央病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先へお問い合わせ下さい。

①研究課題名	骨量減少が脊椎固定手術の術後合併症に及ぼす影響の調査			
②対象者	函館中央病院で、2017年1月1日から2024年12月31日までの間に、背中側から行う腰の骨を固定する手術（PLIFやTLIFという方法）を受けた患者さま			
③実施予定期間	当院倫理委員会承認日 ～ 西暦2027年3月31日			
④実施機関	函館中央病院			
⑤研究代表者	氏名	塩田 浩平	所属	函館中央病院 整形外科 医長
⑥使用するデータ	- 電子カルテ情報：年齢、性別、身長、体重などの基本情報、骨粗鬆症関連、疾病・手術情報など - 検査結果：骨密度、全身筋量 - 画像：X線・CT画像			
⑦目的	背中側から行う腰の骨を固定する手術（PLIFやTLIFという方法）を受けた患者さまを対象に、手術後の入れた固定具（インプラント）に、後でゆるみや沈み込みなどの合併症が起きているかどうかを調査します。 特に、骨が少し弱くなっている状態（骨量減少）が、こうしたトラブルを引き起こしやすくなる原因になっているのかどうか、その関係を明らかにし、この結果を通じて将来、手術を受ける患者さんのために、固定具の合併症を減らすような、より良い治療法を検討します。			
⑧方法	この研究は、過去の診療記録や検査結果を調べる「後ろ向き」の調査として行われます。対象となる方の年齢、病名、手術内容などの基本情報を集めます。 特に、手術の6ヶ月前以内に行われた骨密度検査（DXA）の結果や、全身の筋肉の量も使って、骨や筋肉の状態を評価します。 主な評価はレントゲンやCT画像に基づき、手術で入れた固定具（インプラント）にトラブル（ケージの沈み込み、スクリューのゆるみ、偽関節など）が起きていないかを調べます。収集したデータは、「骨が弱いグループ」「骨量が少し少ないグループ」「骨が正常なグループ」の3つに分けて比較し、どのグループでトラブルが起きやすいかつつまりリスクの原因を統計的に分析します。			
⑨倫理審査	函館中央病院倫理委員会			
⑩公表	研究成果は学会や医学論文などに発表されることがあります。			
⑪プライバシー	本研究では、特定の個人を識別することができないものになっています。			
⑫試料・情報の保管及び廃棄	本研究で得られた情報は、研究の中止または終了後3年のいずれか遅い時期に廃棄します。			
⑬利益相反	本研究は企業との共同研究ではなく、企業からの資金提供もありません。			
⑭資料の参照	本研究について詳しく知りたい場合は、研究責任医師までご連絡ください。			
⑮問い合わせ	連絡先	函館中央病院	電話	0138-52-1231（代表）
	お問い合わせ内容をお伺いいたします。 後日、あらためて研究者より直接回答いたします。 【当院の相談窓口】 函館中央病院 整形外科 塩田 浩平			

本研究のノウハウやアイデアに関する情報については公開できませんのでご了承下さい。